

農業技術情報

2024年5月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
J A 幕別町 0155-54-4118
J A さつない 56-2131
J A 帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町：5月15日現在）

（）内は平年値

作物名	遅速日数	生育および農作業状況	生育期節
秋まき小麦	早4	草丈 49.4 (33.7)cm 茎数 1,263 (1,433)本/m ²	幼穂形成期 4/26(4/30)
春まき小麦	早3	草丈 23.5 (20.0)cm 葉数 3.7 (3.7)枚 茎数 471 (641)本/m ²	播種期 4/15(4/14) 出芽期 4/23(4/25)
馬鈴しょ		植付期 4/23 (4/28) 植付終 5/6 (5/7)	
大豆		は種始 5/11 (5/12) は種期 5/15 (5/16)	
小豆		は種始 5/15 (5/15)	
てん菜(移植)	早3	草丈 7.1 (8.2)cm 葉数 8.7 (6.1)枚 移植期 4/29 (5/2) 移植終 5/9 (5/9)	
てん菜(直播)	早3	は種始 4/20 (4/19) は種期 4/23 (4/25) は種終 5/2 (5/5)	出芽期 5/5 (5/8)
牧草	早5	草丈 41.0 (35.7)cm	萌芽期 4/8 (4/10)
飼料用とうもろこし	早1	は種始 5/5 (5/6) は種期 5/11 (5/12)	
たまねぎ	早3	葉数 2.3 (2.2)枚 葉鞘径 4.2 (3.9)mm 移植期 4/24 (5/2) 移植終 5/5 (5/10)	

畑作

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

<秋まき小麦>

幼穂形成期は平年より4日早く迎えました。このまま経過すると止葉期(平年:5月24日)も平年より早まる見込みです。今後の管理において適期を逃さないよう注意しましょう。

1 除草剤の散布

茎葉処理除草剤は雑草が大きくなり過ぎると効果が劣るので、散布時期を逃さないようにします。除草剤の効果は気温や散布後の降雨に大きく影響されるので、薬剤ごとの特徴を考慮して選択します(表1)。

特に、秋まき小麦の「エコパートフロアブル」は既に小麦が止葉抽出してきているため基本

的に今後の使用は避け、他の薬剤にて対応願います。

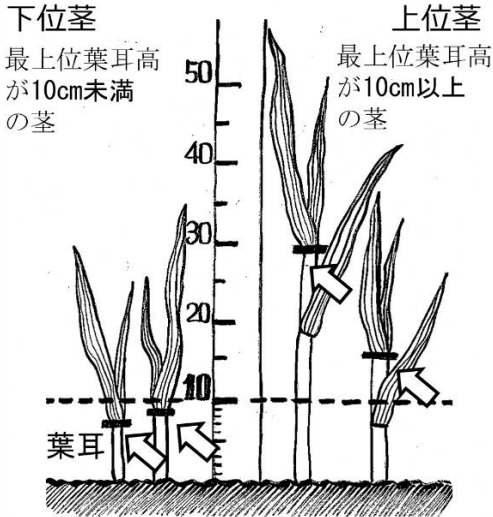
表1 麦類の除草剤使用例

薬剤名	処理方法・使用時期・10a 使用量		使用回数	備考
	秋まき小麦(春期)	春まき小麦		
エコパートフロアブル	止葉抽出前まで (収穫 45 日前) 50～75ml	麦の 2～4 葉期 (収穫 45 日前) 50～100ml	2回	展着剤、殺虫・殺菌剤と混用しない。 高温時に使用しない。
MCP ソーダ塩	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前) 300g	麦の 5 葉期 (収穫 45 日前) 200～300g	1回	晴天高温時に散布する(日中 20℃以上)。
バサグラン 液剤	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前) 100～150ml	麦の 5 葉期 (収穫 45 日前) 100～200ml	1回	散布後の降雨により効果が劣る。 雑草が大きくなると効果が劣る。
ハーモニー DF	【1 年生広葉雑草】 節間伸長開始期～ 穂ばらみ期 (収穫 45 日前) 3～10g	小麦の 3～5 葉期 (収穫 45 日前) 3～5g	1回	散布後は必ず専用洗浄剤にてタンクを洗浄する。

2 窒素追肥

止葉期以降の追肥は千粒重の増加に有効です。ただし、止葉期の上位茎数が 900 本/㎡以上のほ場では倒伏の危険性があり、葉色が濃すぎると高タンパクを招く恐れがありますので、追肥量や方法は生育に応じて判断してください。

【止葉期以降の追肥法の例】



下位茎
最上位葉耳高
が10cm未満
の茎

上位茎
最上位葉耳高
が10cm以上
の茎

葉耳

上位茎数 900 本/㎡未満の場合

- 止葉期に窒素4kg/10a を上限として追肥。
★黄化が目立つ場合は 6kg/10a 上限
★高タンパクが予想されるほ場では、止葉期の追肥を行わないか、追肥量を減らす必要がある。
- 必要に応じて開花期以降に窒素3kg/10a を上限として葉面散布で追肥。

葉面散布例: 尿素 1.5%液3回
 ※ 高温時の葉面散布は「ヤケ」やすいので注意
 ※ 高温時は尿素濃度を下げる(例えば1%に)

上位茎数 900 本/㎡以上の場合(倒伏の危険性が増す)

- 必要に応じて開花期以降に窒素3kg/10a を上限として葉面散布で追肥。(葉面散布例: 尿素 1.5%液3回)

3 倒伏軽減対策

茎数が多く倒伏が懸念されるほ場では、茎稈伸長抑制剤の使用を検討します。散布が遅れると効果が劣るため、表2の目安を参考に散布時期を逃さないよう注意してください。また、薬害を助長する場合があるので、他剤との混用は避けましょう。

表2 茎稈伸長抑制剤の使用例

薬剤名	使用時期		使用時期 目安(R6)	使用量 (ml/10a)	使用 回数	備考
サイコセル PRO	秋小麦	出穂前 20～10 日 (草丈 40 ～60cm)	5/13～5/23 頃	200～300	1 回	・散布時期が遅れると効果が 劣る。 ・高温時期の散布は薬害の 恐れがある。
	春小麦	麦の 6 葉期前後 (草丈 30 ～40cm)	5 月下旬～ 6 月頭頃	150	1 回	
エスレル 10	秋小麦	止葉期～ 出穂始期	5/20～5/28 頃	200～333	1 回	30%以上の出穂を見てからで は倒伏軽減効果が劣る場合 があるので適期に処理する
	春小麦		6/2～6/9 頃			
カルタイム フロアブル	秋小麦	止葉期～ 出穂始期	5/20～5/28 頃	150	1 回	過度な抑制を避けるため、使 用時期・使用量を遵守し、多 量散布や重複散布とならな いように注意する
	春小麦		6/2～6/9 頃			

4 赤さび病防除

これまで、赤さび病防除は開花始の赤かび病1回目防除時に赤さび病にも効果のある薬剤（プロラインフロアブル・バラライカ水和剤等）での同時防除で対応してきました。今年についてもそれは同様で、赤さび病の発生が少ないほ場では、赤かび病と同時防除で対応可能です。

ただし、今年は4月が高温で推移したことから、赤さび病は平年より早く発生が確認されています。よって、今後の発病の伸展によっては開花始を待たずに防除する必要がある可能性があります。ほ場を観察の上、必要なら防除します。

【防除要否の目安】

「きたほなみ」では、上位3葉の発病が影響することから、上位3葉を赤さび病から守ることが必要です。

下位葉の発病は上位葉の発病を増やすことから、下位葉の発病程度を観察し、開花始までに次次葉（止葉の下の下葉）に発病しそうな場合、防除します。

<春まき小麦>

は種はやや遅れましたが、出芽以降の気温が高かったこともあり、現在順調に生育しています。適期を逃さないよう除草剤や茎稈伸長抑制剤を散布しましょう(表1・2)。

<てんさい>

直播作業は順調に終了し、移植作業も降雨の影響でやや遅れましたが順調に終了しました。活着も良好のようです。ほ場ごとの生育に合わせた適期作業を心がけましょう。

1 中耕

- (1) 地温の上昇及び透水性の改善(深耕カルチなどの施工)、土壌の膨軟化、畦間の除草のため、「カルチ」などを計画的に施工しましょう。
- (2) 中耕の深さは根の広がりを確認し、生育初期には浅めに調整し、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期まで実施しましょう。

(3) 中耕時、株元まで土を寄せると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

2 除草剤散布

- (1) 除草剤散布のポイントは適期処理にあります。気象条件や土壌水分等を考慮し、生育と雑草の発生に応じた処理に注意してください。
- (2) 直播栽培は移植栽培と登録基準が異なるので注意しましょう。
- (3) 直播栽培の初回散布時期は雑草発生始～発生揃(てんさい本葉2葉期)で、は種後 30 日前後が目安になりますが、てんさいの葉齢が進んでいない幼小個体では生育が抑制される場合があるため、注意が必要です。
- (4) 直播栽培の風害対策でえん麦を混植した場合は、えん麦の4葉期までに遅れないようにイネ科除草剤(ナブ乳剤、ワンサイドP乳剤)による処理を行ってください。

3 アブラムシ類防除

アブラムシ類防除は早期に発生させない事が重要で、初期防除が大切です。苗床かん注剤(アクタラ顆粒水溶剤)および直播ペレット種子内殺虫剤の残効期間(約 40～45 日)以後の防除準備をしましょう。

《苗床かん注から残効期間を 45 日とした目安の日》

4 月 20 日かん注 ⇒ 6 月 4 日頃

5 月 1 日かん注 ⇒ 6 月 14 日頃

5 月 10 日かん注 ⇒ 6 月 24 日頃

※間隔を空けない様に、防除しましょう

○1 回目のアブラムシ防除
「コルト顆粒水和剤」6,000 倍

<ばれいしょ>

植付作業は順調に終了し、萌芽期はやや早い(平年 5 月 25 日)と予想されます。作業時期を逃さないように、ほ場をよく観察してください。

1 除草剤

土壌処理剤は適度な土壌水分がある時に散布しましょう。

表3 ばれいしょ除草剤使用基準(例)

除草剤名	使用時期	使用量 (ml,g/10a)	使用 回数	備考
センコル水 和剤	全面土壌散布又は 雑草茎葉散布 植付後～萌芽直前	100	1 回	品種(メークイン等)によって葉の黄化等の薬害が生じることがあるので注意する。
ロロックス	全面土壌散布 植付直後～萌芽前	100～200	1 回	—
モーティブ 乳剤	全面土壌散布 植付後～萌芽前 (雑草発生前)	200～400	1 回	—
フルミオ WDG	全面土壌散布 植付後～萌芽前 (雑草発生前)	10～15	1 回	・処理時期が萌芽期に近いと薬害を生じる恐れがある。 ・萌芽後に使用すると、薬害が生じるので、必ず萌芽前に使用する。 ※防除ガイド(オレンジの本)p23～24 参照

2 中耕・培土

「カルチ」・「畦間サブソイラ」等により土壌の膨軟化と地温の上昇を図り、通気性や透排水性の向上に努めましょう。

(1) 早期培土の注意点

- ・萌芽始までに行いましょう。
- ・培土時の土壌水分が高い場合や培土後2日以内に降雨が予想される場合は、培土にひびが入り緑化いもの発生の原因となるので避けましょう。
- ・培土後、ばれいしょ萌芽前の適度な土壌水分がある時に除草剤を散布しましょう。

(2) 慣行培土(中耕)の注意点

- ・萌芽の直前と萌芽1週間後に行い、地温を上昇させ萌芽と初期生育を揃えましょう。
- ・晴天の午前中に行うと効果的ですが、土壌水分が低いと培土が崩れやすく、緑化の原因になる場合があるので、適度に水分がある時期に実施しましょう。
- ・土壌が過湿状態の時にを行うと、土を締め過ぎるので注意しましょう。
- ・培土作業が遅れるとストロンを損傷し、塊茎数の減少や肥大の妨げとなるため、着蕾期までに最終培土を終えましょう。

<豆類>

種子消毒は、必ず実施しましょう。

は種は、慌てずに地温が十分確保されてから行いましょう。

1 は種時の注意

(1) 種子に合ったは種板を準備

必ず使用する種子の大きさを確認し、目標とする栽植株数(表4)となるよう粒大に合ったは種板を準備しましょう。

表4 栽植密度の目安

区 分	栽植密度 (株/10a)	畦幅×株間の目安(cm)
小豆※ / 菜豆	8,300(16,600 本)	66 × 18(2 粒) 60 × 20(2 粒)

※「きたろまん」は5月下旬は種において、1.2～1.5 倍程度(25,100 本/10a)までの密植により、成熟期の前進と増収が期待できる。ただし、倒伏が増加する事例があるので生育旺盛なほ場では標植とする。

(2) 種子消毒

ア タネバエ対策

豆類は、次のような条件でタネバエによる被害を受けることがあります。このような場合での種は避けましょう。

- ・は種後低温が続き、出芽までの日数が長くなってしまう場合
- ・土壌水分が高い時
- ・牧草・緑肥をすき込んだほ場
- ・魚かす・鶏糞・未熟堆肥等を施用したほ場

イ クルーザーFS30(種子塗沫剤)使用時の注意

- ・必ず殺菌剤(チウラム 80 または粉衣用ペアーカスミン D)と併用し、処理は

クルーザー → 殺菌剤 → 根粒菌 の順とする。

- ・菜豆・小豆は乾燥するまでに時間がかかるので、早めに準備を行う。

(塗沫後乾燥に要する時間は、菜豆で5～6時間、小豆で1～3日)

ウ クルーザーMAXX(種子塗沫剤)使用時の注意

- ・殺菌剤との併用は必要ありません。
- ・クルーザーFS30より乾きにくいので、注意してください。

(3) 出芽率の向上のために

ア は種は地温が十分に上がり、遅霜の影響がなくなる時期に行ないましょう。

イ 土壌の乾燥が予想される場合は、再度鎮圧を実施しましょう。

2 除草剤の散布

例年、散布適期を逸したり除草剤散布後の降雨などの影響で、薬害による生育遅延が散見されます。豆類の生育や雑草の発生状況を確認し効果的な散布に心がけましょう(表5)。

表5 豆類除草剤使用基準(例)

農薬名	処理方法	対象作物	使用時期	使用量 (10aあたり)	回数	備考
ピンサイド 乳剤	全面 土壌処理	大豆 小豆 菜豆	は種後2～5日 (雑草発生前)	330～400g	1	
コダールS水和剤		大豆 菜豆	は種後～出芽前 (雑草発生前)	225～300ml	1	
フルミオWDG		大豆 菜豆	は種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g	1	「フルミオWDG」は散布に用いた器具は必ずメーカー推奨の方法にて洗浄すること (オレンジ色の防除基準p. 19～20参照)
ロロックス		大豆 菜豆	は種直後 (雑草発生前)	100～150g	1	
パワーガイザー液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	大豆 小豆 菜豆	出芽直前～ 出芽揃 出芽直前～ 出芽期	200～300ml	1	「パワーガイザー液剤」は有機リン系殺虫剤やほかの除草剤との近接散布は薬害の恐れがあるので避ける
バサグラン 液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	菜豆	初生葉展開期～ 本葉抽出始期 (雑草2～3葉期)	50～70ml	1	

3 中耕

除草剤の残効を考慮し、地温の上昇と除草のため中耕を実施しましょう。除草のための中耕は、好天で日中の気温が上がる日が効果的です。

4 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介するウイルス病で、山間部やほ場周辺に牧草地がある場合、および春先の温度が高い年は有翅虫の飛来が早まり感染のリスクが高まります。

表6 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

病害名	薬剤名	使用濃度	使用時期(収穫前)	回数(以内)
大豆「わい化病」 菜豆「黄化病」	ペイオフME液剤	2,000 倍	7日	3回

防除時期: クルーザーを使用していない場合…出芽揃～初生葉展開期に1回目、6月中下旬に2回目

クルーザーを使用した場合…6月中下旬(は種後1ヶ月程度をめぐり)の1回

野 菜

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内にとし、薬害やドリフトには十分注意してください。

< ながいも >

1 除草剤の処理

植付直後から萌芽前までに土壌処理剤を散布してください。

表1 ながいも除草剤の使用基準

薬剤名	処理方法及び使用時期	10a 当薬量	使用回数	注意事項
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布 植付後～萌芽前 (雑草発生前)	200～400 ml	1回	—
ロロックス	全面土壌散布 植付直後	100～200g	2回	①植付直後と生育期をあわせて総使用回数は2回以内。 ②砂質土で透水性のよいほ場では散布を避ける。 ③マルチ栽培では薬害を生じる恐れがあるため使用しない。
	畦間土壌散布 (雑草発生前～発生揃期) 生育期 但し収穫 60 日前			

2 マルチ栽培での芽やけ対策(スリットからの芽出し)

ほ場の見回りをこまめに行い、マルチのスリット部に芽が引っ掛かっているものは速やかに出して、芽やけ(高温障害)を防ぎましょう。

つるが伸びてきたら早めにネットに絡ませましょう。同時に1株からつるが2～3本出ている場合には生育の遅いつるを地中で除去し、主づるを1本にしましょう。

農薬のドリフト防止対策

この時期に使用の多い除草剤でドリフトが起こると、作物の生育に障害が出ます。農薬の散布時には注意しましょう。

《ドリフト防止のポイント》

- ① 風のない時を選んで散布する。
- ② 散布機の圧力を適切に設定し、細かい粒子の発生を抑える。
- ③ ドリフト低減ノズル等、適切なノズルを選択する。
- ④ 対象作物だけにかかるよう、散布の高さを適切にする。
- ⑤ 使用した農薬がタンクに残らないよう、散布機の洗浄はしっかりと丁寧に行う。

